

後援会 会報

No. 5

- 後援会活動報告 1
- 理事長・学長挨拶 2
- 就職課便り 3
- 理学療法学科一期生の就職への取り組み 4
- 平成21年度父母懇談会を終えて 4
- 後援会から 4

平成22年3月1日(月)

発行責任者 伊藤誉志久
 発行係 〒061-1449 北海道恵庭市黄金中央5丁目196番地の1
 北海道文教大学事務局学務部教務学生課内
 北海道文教大学後援会 TEL 0123-34-0011

後援会活動報告



北海道文教大学後援会会長
伊藤 誉志久

会員の皆様には日頃から後援会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。さて、ご承知のように、北海道文教大学後援会は、文教大学並びに短期大学の建学の精神に則り、会員の皆様方相互のご協力によって、大学と短期大学部を後援し、その発展充実に寄与することを目的として、会員の皆様方からお預かりした会費収入により、様々な事業を展開しているところであります。

本号では、今年度の後援会事業のうち主な事業の進捗状況等についてご報告させていただきます。

○学生福利厚生施設設備費の執行について

大学は緑豊かで数々の花が咲き誇る恵庭市にあります。そこで、そのような環境を踏まえて学生生活を楽しくしていただきたいと考え、昼食時や語らいの場などとして学内の芝生部分にベンチ等の設備を整備すべく、今年度において予算化致しました。しかしながら、大学側の方から次のような意見をいただき、確認のため後援会理事による「キヤンパスウォッチング」を実施し協議した結果、実態が確認できなかったので、カフエテラスとコンビニとの間にある(学生ラウンジ)に食事や語らいの出来る椅子とテーブルを整備することと致しました。

※大学側意見..最近の学生の動向を見ていると、外に出て行動する(昼食や語らい、勉強)という者は極めて少ない。せつかくベンチ等を整備しても利用は少ないと思われる。

整備状況は別添写真のとおりで、学生からは好評を得ているとご報告です。

なお、この整備と同時に大学側に対して時間外における学生への飲食対応という観点からのカッブ類自動販売機の整備や喫煙スペースの環境整備

に係る改善についてもお願いしております。

○修学資金貸付金について
 この貸付金は平成19年度に新規事業として制度化致しました。この事業は、いざ卒業を間近に控えた学生に突然襲った経済状況の悪化に対して、授業料相当分を貸し付けられるという制度ですが、昨今の大変厳しいと言われる経済状況の中ではありますが、現時点まで1件の利用もありません。制度創設の時点で、社会経済情勢等の変化を踏まえて、5年後を目途に見直しをすることとしたものですが、全く利用実績がないということを考慮し、明年度早々にも制度の存廃も含めて全面的に見直すこととしております。

○吹奏楽部楽器整備の件

大学側から、吹奏楽部の楽器購入に関する要望がありました。一般に、このようなサークル或いは同好会活動に対しては、学生活動助成として文化・体育助成を実施しているのですが、当部が出来たての部であることから活動実績が当且と助成されないこと、また、仮に実績を積み重ねていくとしても、演奏に必要な編成の楽器を揃えるには相当な期間を要すること、さらに楽器そのものが高価なことなどから、後援会として特例的に支援していただけないかとのご報告でした。

WG及び役員会で協議の結果、以下の理由等により要請に応えることとしました。

- ・吹奏楽部の存在と活動は、地域における大学の地位向上や広報宣伝に寄与する。
- ・後援会が関与する入学式や学位記授与式などの行事における学歌吹奏などにおいて活動が期待できる。
- ・吹奏楽による他大学との交流などは学生に様々な面で良い影響がある。

皆さんの前でお披露目されるのも近いのではないかと考えております。

○父母懇談会

今年は、恵庭キャンパス、札幌キャンパスのほか、地方都市開催として北見市と函館市において地方父母懇談会を開催致しました。広報宣伝に努めた効果なのか、お陰様で恵庭キャンパスでの父母懇談会は昨年にも増して盛況であり、また地方では2市の合計で61名の出席と例年以上の盛況となりました。

今回は、昨年にも増して大変厳しい就職環境の中にあることから、大変熱心な懇談会となり、特

に初めての卒業生を送り出すことになる「人間科学部・理学療法学科」の就職先などに関して色々と質問なども出て、大変有意義な会であったと考えております。

今後とも、引き続き開催して参りたいと考えておりますので、会員の皆様には是非とも時間を作っていただいで出席されるようお願い致します。

○WGの活動状況

WGは、総会で出されたご意見への対応、学生福利厚生施設整備事業の執行と前段における「キャンパスウォッチング」の実施、後援会体制整備に関する件、貸付金制度の取り扱い、大学側からの要望事項への対応のほか、新年度予算編成や新規事業のあり方などの案件を役員会の前処理として検討し、一定のたたき台を持って役員会におけるスムーズな議論に付すよう機能して参りました。

明年度においてもWGを設置するのかどうかについては、今年度最終の役員会において協議することとしております。

なお、長年の懸案事項としてWGで検討して参りました後援会の体制整備(なり手のない「役員」会長1、副会長2、監査2)の選出をどうするか(については、ルール化は断念せざるを得ない状況にありますが、幸いなことに今年度の理事の方々の協力を得ることが出来ており、近い将来においては、役員の全員、或いはその過半が在学生を一人も抱えていないという異常な事態は避けることができるものと考えております。

以上、後援会事業のうち主な事業の進捗状況等の一端をご報告させていただきました。

まだまだ若い大学でございますので、今後とも、社会経済情勢などの変化に適切に対応した諸事業の展開を図るとともに、後援会事業の硬直化やマンネリ化を排除し、本学に学が学生が快適で有意義な大学生活を送ることが出来るよう、下支えとなる効果的な事業を実施して参りたいと考えております。

また、将来においては、大学を後援する例..教員の留学への支援など(ご自身も手を付けていかなければならぬ)と考えているところでもあります。

後援会事業や活動について、お気づきの点、ご意見、或いはご要望などがございましたら、是非、ご一報いただくとお願い致します。

終わりに、私ども役員はそれぞれ仕事をもちながら、言わばボランティアとして後援会活動に従事しておりますので、会員の皆様方には事情をご賢察のうえ、後援会の目的が達成できますよう、今後とも後援会活動への積極的なご参加と、なお一層のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

理事長・学長挨拶

一人前の人間としてのたしなみを
——「品格」と「服装」について考える

学校法人鶴岡学園 理事長
北海道文教大学・北海道文教大学短期大学部 学長

鈴木 武夫



大相撲の横綱が場所中の不行跡の「品格」を問われて引退を勧告されるという事態がありました。続いて、オリンピックの代表選手が、公式の「服装」を着崩してあらわれ、開会式への参加を差し止められるという残念な出来事も大きく報道されました。私はこの二つのケースに、ある共通する傾向がみられるような気がします。

マス・メディアは、まずは厳しく非難をしました。しかし、少しすると師匠や指導者の責任を追究する論調が多くみられるようになりました。そして、人懐こくて明るい人柄であるとか、本当は心やさしい人物であったというような擁護論が始めました。この国のマス・メディアの底の薄さは、時折私どもの世代には目を覆いたくなるような気がする

ことがあります。これが若い人たちの教育に与える影響を考えますと、しっかりと位置付けておかなければならぬ問題であると思われま

す。若いころに外国から来てよく理解していなかったとか、若いころからプロになっていて、社会的常識を身につけられなかったから、指導者の責任だというのはあたりません。外国から来たのならその国の価値観や歴史について謙虚に学び、行動も責任をもったものにしなければなりません。また、若いころからプロになっていたのならその職業に対して責任と敬意をもたなければなりません。自分の思い上が

りやわがままをプロ意識の表れだと強弁する態度は許されません。

私たちは「一人前の人間としてのたしなみをもちなさい」と教育されて育ちました。「嗜み(たしなみ)」とは、「①心得②心がけ」という意味です。また、「品格」とは「①ものよしあしの程度②品位、気品」という意味であり、「服装」は「①身なり②よそおい」ということであって、格別難しいことではありません。

私たちの世代よりもっと若い作家の村上龍氏もこのことに関して「服装身だしなみがしっかりしていなければ、集客力がでません」とあっさりと言っているのが印象に残りました。

社会の価値観が多様化していることは理解できますが、当たり前前のことは当たり前のこととしてしっかりと仕付けることが大切であると思われま

す。「仕付け」は「躰」とも書き、「礼儀作法を身につけさせること。また身についた礼儀作法」であり、字そのものからしても、身体を美しく育てるということでもあります。学生たちを、たしなみと品格のある一人前の人間として育てることが、高等教育機関としての使命でもあります。後援会の皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。次第であります。



就職課便り

就職課便り

今春卒業予定の道内の大学生の就職未内定者が多く、就職活動が例年になく長引いています。世界的不況による企業の求人減で道内の大学生は超氷河期の就職状況が続いています。道内の各大学とも、昨年から求人に期待をかけてきました。しかし、就職情報会社が開催する説明会の中には、企業の採用数減少を受け、中止も見られました。今年度の就職戦線の厳しさは、最後まで続き、このことは、全国的な傾向です。本学の就職内定は、学生の頑張りもあり、他道内大学に負けない内定率を挙げてきていますが、本学にとっても危機意識が続いています。学内では、就職課指導室を中心として、エントリーシート、履歴書の作成、個人面接および集団討議などの対策に取り組んできています。学外での学生の就職活動をお知らせしたいと思います。

学外での就職活動について

一、合同企業説明会

2月上旬に多くの企業が参加する合同企業説明会を皮切りに札幌市の各種施設を会場に合同説明会が開催されています。特に2月、3月の開催が多いです。学生は、就職情報会社や主催団体および開催日の参加企業を就職課やホームページで調べ、希望する合同企業説明会を選択し、参加しています。

就職課職員も説明会には出席し、学生の活動状況の観察、面談の企業先の選択や面談の仕方についてアドバイスするようにしています。

二、単独企業説明会

企業は、合同企業説明会への参加の他に企業独自で説明会を開催しています。

学生は、合同企業説明会での参加およびインターネットで単独開催を知り、関心の高い企業の説明会に出席しています。

三、札幌学生職業センターの活用

学生職業センターは、合同企業説明会などに参加しない企業の求人、少数採用企業の求人情報、特殊法人および組合関係の一般職の求人が主です。就職課の求人情報（学生職業センター）に加えて、直接センターを訪問し、センター職員との面談などによって、求人情報の詳細を確認している学生もいます。

また長期休業中大学就職課に出向きづらい学生はセンターを活用しています。

四、学生の就職活動のサポート施設

本学生が、札幌での就職活動の空き時間などに気軽に自由に立ち寄る場所を用意しています。学生は、体を休め、コーヒーを飲んだり、自由にインターネットを使うことが出来ます。隣接のセミナールームでは、就職情報会社の職員や豊富な人事経験担当者が学生の就職活動をバックアップしてくれます。

またこのセミナールームでは、就職活動スタート・グループディスカッション・自己分析・エントリーシートそして面接などの講座などを開設していますが、本学生は、無料で希望する講座に参加することが出来ます。

外国語学部、健康栄養学科の学生は、授業に位置付けられている三年生後期の就職講座で、就職活動の手順やルールについて学びながら、就職活動の基本的な知識や活動の仕方を具体的な場面を想定し、実際に行動する就職活動について学習しています。

就職活動全体の流れを理解し、今後の大学生活の中で、就職活動を計画的に位置付け、お互いが内定獲得への意識を高め合っています。講座の学習を土台にして、学内外での準備や活動に取り組んでいきます。学生は、職

業を通じて、自己実現し、社会に貢献し、生計を立て、職業人として充実した日々を願っています。景気の回復が不透明な今日、今後も大学生の就職難を覚悟しなければなりません。学生に対し、親身になって向き合い、一人ひとりの学生に対し、就職活動への精神的な支えになりながら、学生の願いや期待に応える就職課を常に目指していきたくと考えています。



理学療法学科二期生の就職への取り組み

理学療法学科四年生は、一年生で、病院・施設の見学実習、二、三年生の臨床実習を積んできました。そして、三年間の学習や実習体験を土台に四年生では、正味七週間に亘る総合的な実習を二回計十四週間実施し、患者の方々に接し、4月からの医療現場などで直接生きる貴重な実習体験を終えました。実習後の学生の目指すものは、理学療法士としての勤務場所の就職内定を獲得することであり、そして国家試験に向けての学習です。就職に関わる取り組みは下記の通りです。

一、学内説明会の開催
理学療法学科の学生に対する就職対応として、学科と連携し、学内での説明会を開催しました。日程・内容は下記の通りです。

(九月二十四日)

- ・参加病院・施設 十八
- ・午前 学科紹介および病院・施設と理学療法学科教員との交流会
- ・午後 病院・施設の説明会 (十一月二十七日)
- ・参加病院・施設 九

学生は、両日共複数で二人四ヶ所の希望する病院・施設の説明を熱心に受け、質問する。

二、求人案内
就職指導室前の求人一覽表の掲示及び就職指導室での求人票閲覧



求人状況をその都度、教員に知らせる。

三、選考試験に向けて
十月上旬から病院・施設の選考が開始しているが、履歴書の作成、面接対応、論文作成について学生を支援する。

四、学生の就職活動
学生は、チームを組んで、興味・関心のある病院・施設を直接訪問し、志願先選定の参考にします。

五、その他
勤務先の内定獲得に向けて、学生の頑張りはもとより、学生、教員および就職課にとつても二期生であることに緊張感を持って、3者が一体となつて取り組んだことが現時点で、就職内定の好結果に繋がっていると思われる。

(三月二日現在)

*学内説明会に要する費用は、後援会で負担して頂いています。

平成21年度 父母懇談会を終えて

448名のご父母が参加

北海道文教大学後援会では、大学及び短期大学の各学部・学科と連携をとり、札幌キャンパスで7月19日に開催した短期大学の父母懇談会を皮切りに、8月30日に函館会場、9月5日に北見会場、そして10月11日に恵庭キャンパスでそれぞれ父母懇談会を開催しました。

今年度の地方会場は、函館及び北見で開催しました。また、札幌及び恵庭キャンパスでは、例年どおり大学祭の期間中に父母懇談会を開催し、学生のキャンパスライフを併せてご覧いただきました。

父母懇談会は特に個別面談を重視し、各担当者が成績表及び授業出席状況を把握してご父母にきめ細かく対応した結果、出席されたご父母からは大半の方から有意義で、来年も是非出席したいとの感想を頂いております。

来年度以降も父母懇談会の開催場所などを含め、より一層の内容の充実を図ってまいりますので、より多くの会員の皆様に出席していただけるよう後援会役員一同お待ちしております。

後援会から学生福利厚生施設として椅子とテーブルを寄贈

このたび、後援会では21年度事業としてカフェテラスとコンビニとの間にある学生ラウンジに、60席分の椅子とテーブルを寄贈しました。

写真のとおり、オシャレで明るい色調の椅子とテーブルは学生に大変好評で、憩いの場として広く利用されています。

(助成の経緯等、詳細は会長挨拶を参照して下さい。)

